

令和5年度 第1回浪江町都市計画審議会 議事録		
日時	令和5年8月8日(火) 14:00~15:00	
場所	浪江町役場 本庁舎 2階 大会議	
案件名	浪江都市計画研究施設1号 福島国際研究教育機構の決定について	
出席者	委員	佐藤 秀三(会長) 鈴木 仁根 佐々木 茂夫 松本 トミ子 高野 一郎(欠席) 阿久津 雅信 門馬 和枝 鈴木 教弘 平本 佳司 紺野 則夫
	事務局	建設課 課長 宮林 薫 " 課長補佐兼都市計画係長 長沼 和也 " 都市計画係副主査 鈴木 恵輔 市街地整備課 F-REI 立地室長 伴場 裕史
	オブザーバー	復興庁 福島国際研究教育機構室 参事官 中原 健一 参事官補佐 外川 喜一郎

○協議内容

1. 開会(進行:浪江町建設課都市計画係副主査 鈴木)

2. 挨拶(都市計画審議会会長 佐藤 秀三氏)

会議の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。本日は、お忙しい中、浪江町都市計画審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、委員各位におかれましては、浪江町の復興に向けて、多方面からお力添えをいただいておりますことに対し、改めて敬意と感謝を申し上げます。震災から12年余が経過いたしました。この間、平成29年3月には避難指示区域の一部が解除されるとともに、町内では様々な復興事業が進行し、本格的な復興・再生に向けた取組が行われています。

震災から12年余が経過いたしました。この間、平成29年3月には避難指示区域の一部が解除されるとともに、町内では様々な復興事業が進行し、本格的な復興・再生に向けた取組が行われています。

一方で、本審議会におきましては、これまで、「道の駅なみえ」や「浪江駅周辺地区一団地の復興再生拠点市街地形成施設の都市計画決定」についてご審議をいただいておりますが、本日は、「福島国際研究教育機構の都市計画決定」に関する議案についてご審議をお願いいたします。ご承知のとおり機構は、我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経

済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」を目指すものとされており、多くの研究者や関係職員の勤務、関連企業の立地が見込まれますので、多岐に渡り浪江町のまちづくりに貢献できる事業であると期待しております。

都市計画は、住民が安全で快適な生活をおくり、企業などが効率的な経済活動を営めるよう、まちづくりを進めるためのものであります。私たちの活動が町民の皆様の暮らしや環境に良い影響を与えることを意識し、識者の方々の幅広い観点からご知見を賜り、ご審議いただきたいと考えております。どうぞ忌憚のないご意見をお願いいたします。

最後になりますが本日の審議内容は、都市計画決定の法手続きという事業推進の大きな第一歩であります。議事の進行に際しては円滑なコミュニケーションを心掛けてまいりますのでどうぞ皆様のご協力をお願い申し上げます。

3. 議事

【議案1号 浪江都市計画研究施設 1号 福島国際研究教育機構の決定の概要について説明】

(説明者：浪江町建設課 課長補佐兼都市計画係長 長沼)

<別添資料に基づき、都市計画変更内容を説明>

○門馬委員

(質問) 住民説明会の質問・ご意見等を教えていただきたい。

(回答) 都市計画自体の質問は無し。質問としては「建築はいつから始まるのか」、「機構のイメージがわからない」等があった。「施設については今後計画していくことになる、復興庁の設置期間が令和12年度までなので令和13年3月まで機構を整備していきたい。」と回答した。

○佐々木委員

(質問1) ふれあいセンターなみえグラウンドの南側及び北側の水路は断面そのものが農地の排水係数から算出したものであり、関連工事として水路の整備がなされれば下流流域の異常気象等による湛水、家屋浸水を防げるのではないか。

(質問2) 洪水ハザードマップの浸水想定区域として位置付けているが、機構の建築はハザードマップを参考にしているのか。

(質問3) 防災コミュニティセンターを各地域に作っている。広域防災等を考えると、地域との連携が必要だと思う。

(質問4) 今後の浪江町を見据えた際、関連する都市計画道路の整備が必要。大型バス等の乗入等を考えた際に、他の幹線道路と自由に往来できる道路の確保が必要。

(質問5) 人口増により、住宅、医療機関の設置、商店街、役場、道の駅、浪江駅と連携をとることが必要であり、まちづくりや都市計画のロードマップみたいなものが必要ではないか。

(回答1.2) 長沼補佐→今回は都市計画に位置付けるためのもの。施設の内容や設計についての検討はこれからになる。当然周辺の状況やハザードマップ等の浸水を考慮して計画することになる。

(回答3) 長沼補佐→町の防災計画も、新たな施設が出来れば見直す必要がある。検討しながら進めていく。

(回答4.5) 伴場室長→F・REI と連携したまちづくりが必要になるので考え方を整理しながら進めてく。周辺道路等も関係機関と協力しながらより良い周辺まちづくりをしていきたい。

(要望) 最後に要望となるが、町外から浪江町に通っている方が多い。そういった方が、町に住み勤務できるよう、移住者への支援策を検討いただきたい。

○阿久津委員

(質問) 今回決定分と記載あるが、次回決定分があるのか。

(回答) 今後は様々な都市計画があるので、今回はこれだけの決定となる。今後機構ができることにより新たな見直しが必要な部分が出てくる可能性がある。

(議長：佐藤 秀三氏)

それでは裁決に移らせていただきます。「議案1号 浪江都市計画研究施設1号 福島国際研究教育機構の決定について」賛成される方の挙手を求めます。**【全員挙手】**
賛成全員であります。本案は、議案のとおり可決されました。

4. その他

今後のスケジュールは、8月30日に予定している復興整備協議会にて、都市計画決定及び都市計画事業認可を盛り込んだ復興整備計画の協議を行う。その後9月頃に復興整備計画を公表し、今回の都市計画決定となる。

5. 閉会

○協議結果

- ・浪江町都市計画審議会による協議により、議案1号 浪江都市計画研究施設1号 福島国際研究教育機構の決定については、原案のとおり承認された。